

砂と暮らし 砂に学ぶ

ITP
だより

チュニジアでは10月から4月ぐらいまでが雨期。南部の年間降水量は100〜200mmで、鳥取県の年間平均降水量約1900mmと比べてとても少ない。この期間に降る雨のおかげでワジ(かれ川)では一時的に水が流れる。植物は3月の終わりから4月にかけて芽を出し、花を咲かせる。しかしながら、雨は雨期の間、定期的に降るわけではなく、数日間豪雨が続いたかと思えば、何週間も晴れ間が続いた

いい天気??乾燥地の大雨 ⑩



豪雨の後で乾燥した土壌は、性質によってはバリバリに硬くなって割れてしまう

ITP(若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム) 国際的に活躍できる若手研究者を育成することを旨とし、日本学術振興会が支援する事業。

りと不規則極まりない。

チュニジア人は雨が降るととても喜ぶ。雨のせいで調査が延期になっても、研究者たちは「こんな雨の日は気分がハッピーになるね」と言う。友人たちも口をそろえて「今日はなんて天気がいいんだ！」と笑顔で言う。

しかし一方で、この雨によってもたらされる被害もある。水食だ。調査地に出かけるとこの豪雨で削られたであろう土壌が目立つ。またこの雨は穴居住宅に住む人々の家の壁を少しずつ削り取ってしまっているのである。

(鳥取大学大学院農学研究科学生・源実恵)

(水曜日に掲載)